第21回（令和6年度第6回）タウンミーティングの概要

１　団体名　熊谷市ろう者協会・熊谷手話サークル
　　代表者　代表　三澤公男

２　開催日等
（１）開催日　令和6年8月25日（日）
（２）会　場　障害福祉会館
（３）テーマ　デフリンピックを盛り上げよう。

３　意見交換の概要
※ [　　] 内はミーティング終了後、所管課で補足したものです。

市民　9月23日は手話言語の国際デーです。2年前に熊谷市のご協力で熊谷駅前（熊谷駅正面口駅前広場膜シェルター）をブルーでライトアップしていただきました。昨年は残念ながら認知症のオレンジで、直実像だけがブルーでライトアップされました。今年は認知症のオレンジと手話言語デーのブルーを、日替わりで交互にライトアップしてほしいと障害福祉課にお願いしましたが、昨年と同じになるということでした。

9月23日の1日だけでもブルーにしてほしいとお願いしたところ、9月23日は祝日でライトの調整をする職員が休みなので難しいということでした。祝日ではなく平日1日だけでも、ブルーにできないでしょうか、いろいろな方法を前向きに検討していただければ嬉しいです。

市長　昨年は、9月21日が世界アルツハイマーデーで、熊谷駅前の膜シェルターの利用ができなかったことは私も聞いています。大変申し訳ありませんが、今年も昨年と同じ取組をしたいと思っています。来年は改めて、皆様方の要望に沿えるように検討させていただきたいと思います。

[**（障害福祉課）** 9月24日から29日の間、「国際ろう者週間」に合わせ、ブルーライトを実施しました。]

市民　昨年も同じようにお願いしたのですが、大変難しいというお話でした。来年はぜひ交代でできるように調整をお願いします。

市長　来年は9月23日の前日が平日で担当職員が行けますので、ご希望に沿えると思います。日程についてはご連絡をさせていただきます。

市民　ウクライナ戦争が始まった時に青と黄色を半分に分けてライトアップしていたように、日替わりの交代ではなく2色を使うことはできませんか。

市長　ブルーと黄色はウクライナ国旗を表現したものです。ブルーとオレンジ

の 2 色では本来伝えたいものが伝わらなくなってしまうと思います。

市民　昨年、熊谷駅の直実像を近くで見させていただきました。青い色が弱いように感じました。もっとはっきりした青でライトアップできませんか。

市長　明るさの調整については、今わかりませんので、改めて後でお答えします。もしできるのであれば、明るくするようにお願いしたいと思います。

（**商業観光課**）直実像のライトアップについては、株式会社まちづくり熊谷が実施しています。青色が弱いとのご指摘に関しては、「青を綺麗に映し出すため、技術的に白色ライトを混ぜて表現している。」とのことです。

市民　2017 年に熊谷市手話言語条例が制定され、市報とホームページに手話のページを掲載していただきました。ホームページが更新されていないので、ぜひ更新していただきたいと思います。障害福祉課と相談中ですので、年度内に対応していただければうれしいです。

　もう一つ、熊谷市報を毎月読んでいます。今月 8 月号の市報は、リニューアルされ、とても読みやすくなりました。とてもうれしいことです。市長のコラム「てっちゃんのひとりごと」に、さりげなく、ろう者とか手話、デフリンピックのことを入れていただけるとありがたいと思います。また、例年市報に掲載される 12 月の障害者週間の記事にも入れていただけるとありがたいです。

市長　市報を読んでいただいていること、評価いただいたことに感謝を申し上げます。熊谷市より前に埼玉県が手話言語条例を制定したことを覚えていますか。私も埼玉県議会議員のとき、手話言語条例づくりを主導しました。ぜひ「ひとりごと」に取り上げるように考えたいと思います。

　また、ホームページが更新されていないことについては、今後しっかりと取り組ませていただきます。皆さんのご協力がないとできませんので、そのときはご協力をお願いします。

市民　市長動画の字幕は本当にありがたいのですが、字幕を見てもわからない人もいますので、手話通訳をつけてほしいと思います。本庄市やさいたま市では市長会見に手話通訳をつけています。熊谷市も前向きに検討してください。

市長　今、市長の定例記者会見は動画放映をしていません。年度当初の挨拶や、ときには暑さに対する注意喚起などを放映することがありますので、今後そういうときには、手話対応をするように努めたいと思います。これも皆さんのご協力をお願いします。

市民　市長のご挨拶などに、手話を付けていただきたい理由が二つあります。

　一つは、文章が苦手な高齢ろう者もいます。ろう者にとっては手話は言語ですから、手話で情報発信していただけるとわかりやすいということ。

もう一つは、市長のように影響力の大きい方が手話通訳を使ったり、市長自ら手話で表現していただくことが、とても注目を集めますし、手話に興味を持ち、勉強してみようかな、手話通訳を目指そうかなという方が増えるきっかけになるなど、大きな意味がありますのでぜひよろしくお願いします。

通訳者や手話サークルも全力でご協力させていただきたいと思います。

市民　県北で手話言語条例を作ったのは、熊谷市が一番早かったので、そういった意味でも手話通訳をつけられるといいと思います。

市長　私の動画は数が少ないので、一つ一つ力を入れることができます。今日話を伺って、そういうときには手話でお伝えできるようにしたいと思います。

市民　埼玉県聴覚障害者協会から県内の首長に「東京 2025 デフリンピック応援手話言語メッセージリレー」への協力依頼があり、小林市長にはご協力いただけるとのことでありがとうございます。私たちにも市から撮影への協力依頼がありました。応援メッセージは障害福祉課で作成していますが、非常に長いものになっています。二年前にも、市長に私たちの手話表現をまねしていただいたように、今回も同じようにまねしていただければと思います。

埼玉県聴覚障害者協会からデフリンピックのバッジを預かっていますので、撮影の時にそのバッジをつけていただければありがたいと思います。

（会長から市長にバッジが手渡され、市長は早速上着にバッジをつける。）

それと、デフリンピックのポスターをお渡しします。撮影の時に、後ろに貼っていただけるとありがたいと思います。

市長　よろこんでお預かりします。最後にこれを持って写真を撮りましょう。

市民　先日、熊谷ドームでデフラグビーチームの練習があったようです。その情報が伝わらず、残念ながら応援に行けませんでした。今後そのような機会に情報発信していただければ、デフラグビーの認知度も上がると思います。

市長　熊谷市長は、埼玉県のラグビー協会の会長でもあるのですが、情報は入ってきていません。今後は、ドームと連絡を取って、ラグビーに限らず、デフリンピックに向けた合宿や練習があるようでしたら、ご報告させていただくようにしたいと思います。

市民　私達の活動に対してステップアップ助成金を交付していただきありがとうございます。小・中学生に手話を覚えてもらうため、ＤＶＤの作成などをしていきます。ろう者の生活や手話表現などを収録し、来年の 3 月に小・中学校に配布できるように、準備を進めています。小中学校でＤＶＤを活用していただき、ろう者に対する理解の普及、また聴覚障害者と聞こえる人が、お互いに

協力し助け合う社会にしたいと思い作成しています。

市長　ＤＶＤだけだと、再生装置が必要になります。熊谷の子供たちは、タブレットを持っていますので、まずはＤＶＤを作っていただき、YouTube などに載せていただけば、見たいときに見られる環境もつくれると思います。

　ＤＶＤができたら、その次の環境についてもいろいろとご相談をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（**学校教育課**）各教室にある大型提示装置で DVD の視聴ができますので、DVDを活用して、ろう者や聴覚障害者等に対する理解を深めていきたいと考えます。

市民　市長は市役所に耳が聞こえない職員がいるのはご存知ですか。多い時には 4 人いましたが今 2 人です。市長から、声をかけていただければ、心の励みになると思います。ほかにもたくさんの障害者がいて、私たちにとっても誇りになっています。

市長　わかりました。ありがとうございます。

市民　さきほどお渡ししたデフリンピックのバッジを、今後もぜひつけていただきたいと思います。

　もう一つ、車いすの方や身体障害者の方を見ることはあると思いますが、ろう者という聞こえない人がいることを認識したのは何歳の頃ですか。

市長　幼稚園のときです。幼なじみの一人がろう者でした。口の動きで理解していたのかな。その頃は聞こえていなくても、一緒に遊べたような気がします。

市民　本庄市長は手話講習会に積極的に参加していると聞いています。小林市長も手話講習会に参加していただければ最高です。いかがでしょうか。

市長　私は、今市長 1 期生で、一生懸命市長の仕事の勉強をしています。本庄市長は若いけれど、もう 6 期生です。時間の作り方や使い方が違うと思いますので、機会を見つけて手話講習会に伺えるように努力させていただきます。

（**障害福祉課**）本市では、手話への理解及び手話の普及の促進のため手話講習会を実施しています。また、市職員を対象とした研修も行っています。

市民　私が手話を勉強しようと思ったきっかけは、東日本大震災でした。耳の聞こえない方たちが、防災無線が聞こえない、停電でテレビも使えない、津波が来るという情報があるのにそれが聞こえない。逃げることができずに、何が起こったかわからないまま流されて亡くなった方がとても多かったと聞き、手話は命を守る手段でもあるし、情報が入ってこないことは本当に命に関わることだと思いました。興味があるからだけでなく、本気で手話を勉強して、手

話通訳者になって役に立ちたいと思って、今日手話通訳者をしています。

災害発生時に、情報が入ってこないのは、ろう者にとっても不安なことですので、避難所などに手話通訳を配置したり、手話で情報発信ができるようなことを一緒に考えていただけたらありがたいと思います。

市長　ろう者の皆さんにとっては、文章だと伝わりにくいというお話がありましたが、情報を共有する方法として、やはり文字は必要だと思っています。

皆さんは、「クマぶら」をご存知ですか。市では、ここにどんどん情報を入れて、皆さんに提供をしたいと思っています。これを使うことによって市が発信する情報のバリアフリーにも繋がるものだと思っていますので、ぜひこれもご利用いただきたいと思います。

改めて今、手話は本当に言語としてコミュニケーションできていることを感じました。そこにはきっとぬくもりがあるんだろうということを感じています。

市民　熊谷市は、毎年市職員の募集をしています。障害者も募集していますが、手話通訳士も募集していただけるとありがたいと思います。市に手話通訳士を置けば、防災の面で非常に力になれると思います。私たちも市役所に行きやすくなりますので、ぜひお願いします。

市長　以前、別の機会にも、手話通訳者士の採用について話をいただきましたが、専門職としての採用はまだ難しいと思っています。ただ、特技として手話ができるという方がいれば、職員として採用できる環境はつくりたいと思います。

例えば英語や中国語の通訳についても専門職はいません。職員の中からできる人を選んでいます。外国語も手話も一つの言語として考えたときに、そういう技能を持っている職員については、採用のときに考慮をさせていただきたいと思っています。

（障害福祉課）市役所本庁舎では、毎月第1木曜日の 9:00～12:30 に熊谷市手話通訳派遣事務所の通訳者を配置しています。

ろう者の方が、本庁舎で行政手続等を行う際に、同行し通訳をします。

市民　ＡＥＤについてですが、音声の説明だけでは使い方がわかりません。ぜひ文字やイラスト付きのＡＥＤの設置について検討をお願いします。

ＡＥＤは 6、7 社の機器がありますが、音声はもちろん文字やイラストで、ろう者にもわかりやすいものがあります。価格も飛びぬけて高いわけではありません。聞こえる人がそばにいなくても人を助けることが可能になります。

電池交換の時期や、機種変更のタイミングでぜひ検討をお願いします。

市長　予算の問題もありますので、市で対応できるものであれば、採用させていただきたいと思います。

（健康づくり課） AED本体に画面があり、救助活動に連動したイラストと文字を表示することで救助活動をサポートする機種もありますので、今後、導入について研究して参りたいと思います。

市民　昨日ここで避難マップの印刷をしました。9 月 1 日、防災の日に、熊谷市内のろう者、手話サークル関係者に配布しようと思っています。その前に、市役所等公的な施設に避難マップを渡して貼ってもらう予定です。

　市内には、ろう者が 100 人以上いるのではないかと思いますが、友達、知り合い、ろう学校の卒業生などを通じて把握しているのは 80 人以下で、これが限界ですので、情報として提供したいと思います。

市長　市は障害者手帳を交付していますが、自ら情報を出したくないという方もおいでのようです。行政としては、個人情報を皆さんに提供できないこともご理解いただきたいと思います。

（障害福祉課） 避難マップは、市内小学校区ごとに、ろう者の方と手話サークルの方の人数が記されているものです。双方が校区内に手話を必要とする方がいることを知らせるものになっています。

　また、各避難所には聴覚障害者災害時援助用バンダナを配布しています。